

午後Ⅰ試験

問1

| 出題趣旨 | |
|---|--|
| <p>新たな利用者層向けのサービスを提供するシステムを開発する際には、有償サービスの対価に見合う十分な品質の顧客体験価値（以下、UX という）を提供しなければならない。そのためにプロジェクトマネージャ（PM）は、UX に対するニーズを多面的に、複数回にわたって収集し、設計及びテストの各段階で UX の適合性を繰り返し検証するプロジェクト計画を作成する必要がある。</p> <p>本問では、Web サービスのシステム開発プロジェクトを題材として、予測型開発アプローチで利用者参加型の要件定義、設計及びテストを行う際の UX 実現に向けたユーザーニーズの把握、仕様検討、品質確保の方法などについて、PM としての実践的な能力を問う。</p> | |

| 設問 | 解答例・解答の要点 | 備考 |
|-----|---|----|
| 設問1 | (1) 付加サービスの固定観念にとらわれない多面的なニーズを得る狙い | |
| | (2) 希望に合ったレストランを簡単に探したい利用者 | |
| | (3) 検索から予約までの合計の時間 | |
| 設問2 | UX に理解を示している利用者に設計内容を検証してもらう狙い | |
| 設問3 | (1) ・本番稼働環境に近い環境での検証が必要だから ・疑似的な予約データでの検証が必要だから | |
| | (2) UX が対価に見合う価値であるかどうか | |
| 設問4 | (1) より多くの廉価ユーザーを獲得する狙い | |
| | (2) ・廉価ユーザーのニーズなどを複数回にわたって把握する必要があるから ・本番稼働させるには UX の品質を一定のレベル以上にすることがあるから | |

問2

| 出題趣旨 | |
|--|--|
| <p>ステークホルダの特性、システム開発における役割分担など、プロジェクトマネジメントの方法が異なる部門を横断して実行するプロジェクトにおいて、プロジェクトマネージャ（PM）は、目標や制約などを考慮して、最適なプロジェクトマネジメントの方法を採用しなければならない。</p> <p>本問では、プロジェクト作業と保守作業とがシステム部の各課内に混在し、かつ、複数の部門システムを各課が連携しながら並行して開発するプロジェクトを題材として、最適なプロジェクトマネジメントを実施していく上でのプロジェクトマネジメント組織の組成、マネジメント計画の作成について、PM としての実践的な能力を問う。</p> | |

| 設問 | 解答例・解答の要点 | 備考 |
|-----|-------------------------------------|----|
| 設問1 | (1) システム部内で他の課と情報を共有して共同作業を行うことの難しさ | |
| | (2) 不慣れな PMM を適用して生産性が低下する課があるから | |
| 設問2 | (1) 本プロジェクトと制度改正作業の稼働割合と作業進捗 | |
| | (2) 管理部門以外のステークホルダとの信頼関係 | |
| | (3) 本プロジェクトと制度改正作業の間で調整するため | |
| 設問3 | (1) 課を横断する課題の早期検知と、対応方針の早期合意 | |
| | (2) 新システムに関する全ての開発成果物を一元管理する。 | |

問3

| 出題趣旨 | |
|--|--|
| <p>システム開発プロジェクトにおいて、プロジェクトマネージャ（PM）は、プロジェクトマネジメントの対象に関するマネジメント方法を定義してプロジェクト計画書を作成する。その際、組織で定められたマネジメント標準や過去のプロジェクトの教訓を参照することは効率的であるが、個々のプロジェクトの独自性を考慮して修整（テーラリング）することも求められる。</p> <p>本問では、サービス開始日厳守のネット専業銀行の立ち上げに伴うシステム構築プロジェクトを題材として、要求事項のスコープへの取込みに最大限柔軟に対応することを目的とする変更管理プロセスの修整、及び若手リーダーの育成を目的とするチームのマネジメント計画の修整について、PM としての実践的な能力を問う。</p> | |

| 設問 | 解答例・解答の要点 | 備考 |
|-----|------------------------------------|----|
| 設問1 | (1) 要求事項の取込みに最大限柔軟に対応するため | |
| | (2) 要求事項を提出した業務部門への確認などのやり取りを減らす効果 | |
| | (3) 開発項目内のほかの要求事項を外す決定 | |
| | (4) 要求事項を受け入れ続けることでスケジュール遅延したくないから | |
| 設問2 | (1) 支援型リーダーの育成に適さないマネジメントだから | |
| | (2) モチベーションが高く自発的に仕事に取り組む姿勢 | |
| | (3) チームのパフォーマンス低下による進捗の遅れを防ぐ効果 | |
| | (4) 問題が大きくなる前に原因を把握して早期に解決を図る効果 | |